

小杉泰先生——業績——

- 【a】 単行本（単著）
- 【b】 単行本（編著、共著など）
- 【c】 論文・論考など
- 【d】 研究報告・事典項目・研究動向・資料紹介など
- 【e】 書評・新刊紹介など
- 【f】 翻訳
- 【g】 エッセイ・その他（対談・座談会等を含む）

1984 年

- ・「イスラームの『復興』：概念と構造」『国際問題』293、17-31 頁 【c】
- ・『イスラームの文様』（渋谷育由と共著）講談社 【b】
- ・「レバノンと宗教」中東調査会（編）『イスラーム・パワー』第三書館、140-159 頁 【c】
- ・「シュラー制度：イスラーム的民主主義の概念」『国際大学大学院国際関係学研究科紀要』2、147-155 頁 【c】

1985 年

- ・「イスラーム法：研究領域と原典資料」『イスラーム世界』23/24、104-118 頁 【d】
- ・「『アル＝マナール』派のイスラーム国家論」『国際大学大学院国際関係学研究科紀要』3、35-53 頁 【c】
- ・「2つの『イスラーム憲法』：イランとエジプト」『国際大学大学院国際関係学研究科紀要』4、131-150 頁 【c】
- ・「『アル＝マナール』派における政治・宗教的『改革』」『国際大学中東研究所紀要』1、125-152 頁 【c】
- ・「レバノン：宗派的政治意識と教育制度」宮治一雄（編）『中東の開発と統合』アジア経済研究所、53-81 頁 【c】

1986 年

- ・U・ヴィカン（著）『カイロの庶民生活』（翻訳）第三書館 【f】
- ・「現代イスラームにおける宗教勢力と政治的対立：カイロにおけるアズハル＝フセイン複合体とサラフィー主義」『国立民族学博物館研究報告』10(4)、959-1000 頁〔流砂海西奨学会賞受賞〕【c】
- ・「現代イスラーム思想における主権と国家：スンニー派・シーア派の政治理念をめぐって」『日本中東学会年報』1、1-33 頁 【c】
- ・「現代政治と国家体制（第3部第2章「主権と政体」、第3章「立法の機能と制度」、第4章「国家元首と行政機能」、第5章「司法機能」、第6章「権力へのアクセスとエリートの周流」）」中東経済研究所編『中東諸国の支配機構と政策決定過程の研究』中東経済研究所、192-251 頁 【c】
- ・「『初期イスラーム』の規範性をめぐる考察：『共存の原理』の原型としての『マディーナ憲章』」『国際大学中東研究所紀要』2、209-242 頁 【c】
- ・“The Characteristics of Governmental Machinery in the Middle East,” *NIRA Reports*, 3(2), pp. 90-98 【c】

1987年

- ・『現代イスラム小事典』(片倉もところ・加賀谷寛・中村光男・山内昌之・内藤正典と共著) エッソ石油株式会社広報部 【b】
- ・ムハンマド・ラシード・リダー(著)『現代イスラーム国家論:「アル＝マナール」派における政府と立法』(編訳・解説) 国際大学国際関係学研究科 【f】
- ・「イスラーム的システムと現代中東」黒田壽郎(編)『地域研究の方法と中東学』三修社、127-157頁 【c】
- ・「中東における政治危機とイスラーム的レジティマシー:『法の再イスラーム化』をめぐる考察」『現代中東研究』1、2-18頁 【c】
- ・「エジプトにおける『世俗国家』論争:中間報告」『中東研究』314、1-11頁 【c】
- ・「イスラム復興運動の潮流:アラブ諸国における現状と思想的背景」中東調査会(編)『中東におけるイスラム・ファンダメンタリズム(復興主義)の研究』外務省中近東アフリカ局中近東第1課、1-14頁 【c】
- ・「レバノンの豪族政治と宗派政治:世代交代をめぐる」中東調査会(編)『中東地域における要人の研究:中東指導者の形成過程の研究』外務省中近東アフリカ局中近東第1課、97-106頁 【c】
- ・「現代イスラームにおける宗教勢力と政治的対立:エジプトに見る『伝統』と『革新的回帰』」片倉もところ(編)『人々のイスラーム:その学際的研究』日本放送出版協会、27-85頁 【c】

1988年

- ・「近代法導入とイスラーム法復活:エジプトにおける『法改革』をめぐる考察」*IUJ Review* 5、229-264頁 【c】
- ・「中東におけるミッラの政治意識とレバノン国家の解体」『国際大学中東研究所紀要』3、315-358頁 【c】
- ・「中東における国家統合と地域主義」中東調査会(編)『中東域内の国家関係の研究』外務省中近東アフリカ局中近東第1課、10-23頁 【c】

1989年

- ・『エジプト・文明への旅:伝統と現代』日本放送出版協会 【a】
- ・『ムスリム同胞団:研究の課題と展望』(編著) 国際大学国際関係学研究科 【b】
- ・「現代におけるイスラームの『再構築』:アラブ思想界の諸潮流」『現代思想』17(14)、8-26頁 【c】
- ・“Contemporary Islamic Cairo: An Intellectual and Popular Religious Center,” *The Proceedings of International Conference on Urbanism in Islam*, Vol.3, pp. 346-373 【d】
- ・「アラブ・ワッハーブ運動とサウジアラビア」『東洋文庫書報』21、66-67頁(講演記録) 【g】

1990年

- ・ベシーム・S・ハキーム『イスラーム都市:アラブのまちづくりの原理』(佐藤次高ほかと共訳) 第三書館 【b】
- ・「現代におけるイスラーム法と『立法』:イジュティハードをめぐる考察」『国際大学中東研究所紀要』4、111-156+509-511頁 【c】

- ・「『ウンマ』を構想する思想家たち：現代アラブ思想における共同体と国家」黒田壽郎（編）『共同体論の地平：地域研究の視座から』三修社、121-147 頁 【c】
- ・「中東政治潮流とアラブ民族主義・イスラーム復興」板垣雄三（編）『クウェート危機を読み解く』第三書館、147-165 頁 【c】
- ・「エジプトとアラブ世界の東西」板垣雄三（編）『中東パースペクティブ』第三書館、89-113 頁 【c】
- ・「アラブ民族主義とイエメン内戦」黒田壽郎（編）『中東における国家と国際関係』国際大学中東研究所、95-142 頁 【c】

1991 年

- ・ムハンマド・フサイン・ファドルッラー（著）『レバノン・シーア派のイスラーム革命思想』（編訳）国際大学国際関係学研究科 【f】
- ・「アラブ・シーア派におけるイスラーム革命の理念と運動：ヒズブッラー（レバノン）を中心として」『国際大学中東研究所紀要』5、53-84+452-454 頁 【c】
- ・“Restructuring Islamic Political Theories: Basic Concepts in a Contemporary Framework,” in Toshio Kuroda and R. I. Lawless (eds.), *Nature of the Islamic Community*, Tokyo: Keiso Shobo, pp. 37-70 【c】
- ・「湾岸戦争『勝者』が味わう閉塞感ともどかしさ」（エジプト）、「実験国家の変貌と国際政治的綱渡り」（リビア）板垣雄三（編）『中東アナリシス：湾岸戦争後の中東諸国事情』第三書館、421-452 頁 【c】
- ・「イスラーム原理主義」『国際教育事典』アルク 【d】
- ・「文献解題・外国編（「エジプト」の項）」鶴見俊輔ほか（編）『戦後史大事典』三省堂．【d】
- ・「アラブ民族主義」「イスラーム復興運動」「イスラーム法」「イラン・イラク戦争」大学教育社（編）『現代政治学事典』ブレーン出版 【d】

1992 年

- ・ムハンマド・バーキル・アッ＝サドル、ムハンマド・フサイン・ファドルッラー（著）『イスラームの革命と国家：現代アラブ・シーア派の政治思想』（編訳）国際大学中東研究所 【f】
- ・「現代アラブ・シーア派の思想家群像」小杉泰（編訳）『イスラームの革命と国家』国際大学中東研究所、3-32 頁 【c】
- ・「イラクにおけるイスラーム革命運動：政治理念と運動の展開（1957-1991）」『中東研究』363、2-16 頁 【c】
- ・「イスラーム復興運動とウラマーの政治指導：サドルの『法学権威の政治指導』論」『国際大学中東研究所紀要』5、45-70 頁 【c】
- ・「サウジアラビアにおけるイスラームと民主化：『統治基本法』『シュラー議会議法』制定をめぐる」『中東研究』368、4-25 頁 【c】
- ・「GCC 諸国の不安定性の諸要因と当面する課題」中東調査会（編）『湾岸諸国の内政・経済の研究』中東調査会、1-35 頁 【c】
- ・「中東と政治変動：イスラーム的システムと現代」加藤普章（編）『入門現代地域研究：国際社会をどう読み取るか』昭和堂、109-130 頁 【c】

- ・「イスラーム復興運動」永井道雄(監修)・板垣雄三(編)『新・中東ハンドブック』講談社、369-378頁【d】
- ・「<都市とウラマー>エジプト」「<都市ゲリラ>ムスリム同胞団」「<都市と聖者廟>マシュリク(東アラブ)」「<エジプト・スーダンの都市>カイロ」板垣雄三・後藤明(編)『事典イスラームの都市性』亜紀書房【d】

1993年

- ・『イスラーム復興主義運動の諸組織と実態』(編著)日本国際問題研究所【b】
- ・“The Future of Islamic Revivalist Movements and Democracy,” *Japan Review of International Affairs*, 7(2), 114-127.【c】
- ・「シリアのムスリム同胞団とサイド・ハウワー：ある思想家の軌跡」『国際大学中東研究所紀要』7、47-67頁【c】
- ・「なぜ今イスラーム復興主義か」『外交フォーラム』55、27-34頁【c】
- ・「ウラマーと法」山内昌之・大塚和夫(編)『イスラームを学ぶ人のために』世界思想社、36-50頁【c】
- ・「イスラーム復興主義運動の眺望」小杉泰(編)『イスラーム復興主義運動の諸組織と実態』日本国際問題研究所、8-14頁【c】
- ・「座談会『ハディース』をめぐって」(鎌田繁、飯森嘉助、後藤明と座談会)『イスラーム世界』39/40、111-135頁【g】

1994年

- ・『現代中東とイスラーム政治』昭和堂〔サントリー学芸賞受賞〕【a】
- ・『イスラームとは何か：その宗教・社会・文化』講談社(現代新書)【a】
- ・*Al-Salṭana fī al-Fikr al-Siyāsī al-Islāmī* (Beirut: Dār al-Ḥamrā') (Yūsuf ʿĪbīsh と共編。アラビア語：イスラーム政治思想におけるスルターン制)．【b】
- ・『現代イスラーム(スンナ派およびシーア派)の眺望：ウラマーと政治的諸運動の連関を中心に』(激動するイスラーム圏の政治・社会構造の変容の研究・第2回研究会報告)東京大学東洋文化研究所【a】
- ・「アフガニスタンの炎：イスラーム闘争の広がり」石田進(編)『中央アジア・旧ソ連イスラーム諸国の読み方：言語・民族・宗教・資源・産業』ダイヤモンド社、75-82頁【c】
- ・“Religion, Community and Political Culture in the Islamic World: Reflections on Millah,”『国際大学中東研究所紀要』8、119-138頁【c】
- ・「現代におけるイスラーム復興の眺望」『国際問題』411、2-17頁【c】
- ・「現代パレスチナにおけるイスラーム運動」『現代の中東』17、2-26頁【c】
- ・「イスラームにおける啓典解釈学の分類区分：タフスィール研究序説」『東洋学報』76(1・2)、85-111頁【c】
- ・「イスラーム」立山良司(編)『中東：ニュースを現代史から理解する』自由国民社、43-79頁【c】
- ・「中東における政党と政治組織」『中東年鑑1994-94』中東調査会、17-21頁【d】
- ・「徴利論・リバー」川北稔(責任編集)『歴史学事典1 交換と消費』弘文堂【d】
- ・「ホメイニー」今村仁司(編)『現代思想ピープル101』新書館、166-167頁【d】

- ・「国際関係学 25 人 25 色 (20) 中東・イスラーム：小杉泰 1 つのモノサシに偏らず複眼的に」(インタビュー)『国際関係学がわかる』(アエラムック 5)、50-51 頁 **[g]**
- ・「『文明目録』の総点検を」『季刊アラブ』69、29 頁 **[g]**
- ・「日本の内なる民族問題：もはや後戻りできない日本の多民族化」(田中宏・鈴木均・山内昌之と座談会記録)『国際交流』63、2-12 頁 **[g]**

1995 年

- ・「ナショナリズム・宗教共同体・エスニシティ：レバノンにおける『祖国 n』をめぐる」長沢栄治(編)『中東の民族と民族主義：資料と分析視角』アジア経済研究所(所内資料・地域研究部 No.6-3)、51-65 頁 **[c]**
- ・「イスラーム復興主義の台頭とその思想的意味」中東経済研究所(編)『中東新情勢の総合的研究：イスラーム復興主義の動向を中心として』総合研究開発機構、25-40 頁 **[c]**
- ・「統治の目的：イスラーム政治史の眺望から現代へ」板垣雄三(監修)・湯川武(編)『イスラーム国家の理念と現実』(講座イスラーム世界・5)栄光教育文化研究所、11-49 頁 **[c]**
- ・「中東和平プロセスとイスラーム復興主義：地域紛争の変容と和平反対勢力」小杉泰(編)『イスラームと地域紛争』日本国際問題研究所、5-20 頁 **[c]**
- ・「イスラーム復興運動」三浦徹・東長靖・黒木英充(編)『イスラーム研究ハンドブック』栄光教育文化研究所、218-225 頁 **[d]**
- ・「(中東の) 政治文化と社会統合」『ブリタニカ国際百科事典』**[d]**
- ・「アザーン」「[イスラームの] 渾名」「[イスラームの] 石」「[イスラームの] 市」「[イスラームの] 英雄」「[イスラームの] 記念日」「[イスラームの] 香」「[イスラームの] 香炉」「[イスラームの] 宗教的シンボル」「[イスラームの] ターバン」「[イスラームの] 帽子」「[イスラームの] 三日月」「[中近東の] 水」「[イスラームの] 緑」『歴史学事典 3 かたちとしるし』弘文堂 **[d]**
- ・「イスラーム国家」「イスラーム復興運動」「サラフィー」「ジハード団」「シェーラー」「ハサン・アルバンナー」「ハマース」「ヒズブッラー」「法学者の統治」「マジュリス」「マナール」「ムスリム同胞団」「ワッハーブ派」梅棹忠夫(監修)・松原正毅(編集代表)『世界民族問題事典』平凡社 **[d]**

1996 年

- ・『イスラームに何がおきているか：現代世界とイスラーム復興』(編著)平凡社 **[b]**
- ・「脅威か、共存か? 『第三項』からの問い」小杉泰(編)『イスラームに何がおきているのか：現代世界とイスラーム復興』平凡社、16-41 頁 **[c]**
- ・「スンナ派中道潮流の理念と戦略：新たな世界像をめざして」小杉泰(編)『イスラームに何がおきているのか：現代世界とイスラーム復興』平凡社、285-305 頁 **[c]**
- ・「アフガニー：東方の連帯・イスラームの復興」歴史学研究会(編)『「近代」を人はどう考えてきたか』(講座世界史 7) 東京大学出版会、269-286 頁 **[c]**
- ・「イスラーム復興の今日的諸相とパレスチナ問題の現段階」塙治夫(編)『パレスチナ選挙後のイスラーム諸組織の動向調査』日本イスラーム協会、25-53 頁 **[c]**
- ・「イスラーム市民社会と現代国家」山内昌之(編)『「イスラーム原理主義」とは何か』岩波書店、37-68 頁 **[c]**

- ・「国家と宗教の思想」田中浩(編)『現代思想とはなにか：近・現代350年を検証する』龍星出版、164-181頁【c】
- ・「イツハク・ラビン」竹田純子訳『ラビン回想録』ミルトス『東京新聞』1996年5月5日【e】
- ・「国際化社会の中のイスラム」(講演記録)『中東研究』418、13-24頁【g】

1997年

- ・『中東諸国における民主化と政党・政治組織の研究』(編著)日本国際問題研究所【b】
- ・『中東諸国の政治経済構造と政策決定の基本条件』(編著)日本国際問題研究所【b】
- ・「中東諸国の政治経済構造と政策決定の基本条件をめぐって」小杉泰(編)『中東諸国の政治経済構造と政策決定の基本条件』日本国際問題研究所、11-17頁【c】
- ・「レバノン：内戦後の復興と体制再建の課題」小杉泰(編)『中東諸国の政治経済構造と政策決定の基本条件』日本国際問題研究所、82-97頁【c】
- ・「民族・言語・宗教：中東・イスラームからの照射」濱下武志・辛島昇(編)『地域史とは何か』山川出版社、169-209頁【c】
- ・「イスラーム」田中浩(編)『現代世界と福祉国家：国際比較研究』お茶の水書房、644-658頁【c】
- ・「イスラーム復興と今日の中東政治」『海外事情』45(6)、2-16頁【c】
- ・「レバノン」小杉泰(編)『中東諸国における民主化と政党・政治組織の研究』日本国際問題研究所、187-197頁【d】

1998年

- ・『イスラーム世界』(21世紀の世界政治5)筑摩書房【a】
- ・*Fihris Majalla al-Manār 1898-1935*. Beirut: Turāth; Tokyo: Islamic Area Studies Project〔『マナール』誌索引〕(Yūsuf Ḥusayn Ībish, Yūsuf Qazmā Khūrī と共著)【b】
- ・『中東和平の総合的研究』(編著)日本国際問題研究所【b】
- ・『イスラーム諸国の外交政策』(編著)日本国際問題研究所【b】
- ・「構造化する中東の危機：和平プロセス・民主化・イスラーム復興」『国際問題』462、2-14頁【c】
- ・「イスラーム諸国会議機構とイスラーム連帯」小杉泰(編)『イスラーム諸国の外交政策』日本国際問題研究所、13-25頁【c】
- ・「現代イスラム世界の生成・発展とイスラム復興」『イスラム世界の相互依存と対立・対抗に関する研究』総合研究開発機構、21-32頁【c】
- ・「イスラームの共同体とイスラーム的近代化の論理と倫理」川田順造ほか(編)『開発と民族問題』岩波書店、185-205頁【c】
- ・「帝国主義と自由と人権：中東・イスラーム世界からの逆照射」『工業化と国民形成(18世紀末-20世紀初)』(岩波講座 世界歴史18)岩波書店、143-162頁【c】

1999年

- ・『国際政治と宗教』(『国際政治』121号)(編著)【b】
- ・「〈特集〉東南アジアにおけるイスラーム」(編集)『東南アジア研究』37(2)、京都大学東南アジア研究センター【b】

- ・「イスラーム世界の東西：地域間比較のための方法論的試論」『東南アジア研究』37(2)、123-157 頁 【c】
- ・「東南アジアをどうとらえるか (3)：イスラーム世界から」坪内良博(編)『総合的地域研究』京都大学学術出版会、351-384 頁 【c】
- ・「変革のイスラーム：文明再生の論理と構想」木村雅昭・広岡正久(編)『国家と民族を問いなおす』ミネルヴァ書房、273-296 頁 【c】
- ・「Robert W. Hefner and Patricia Horvath, eds., *Islam in an Era of Nation-State: Politics and Religious Renewal in Muslim Southeast Asia*. Honolulu: University of Hawai'i Press, 1997」『東南アジア研究』37(2)、297-299 頁 【e】

2000 年

- ・*Qirā'āt fī al-Fikr al-Siyāsī al-Islāmī* (Beirut: Amwāj). (Yūsuf Ībīsh と共編。アラビア語：イスラーム政治思想選集) 【b】
- ・『21 世紀の国際社会とイスラーム世界』(平成 11 年度外務省委託研究報告書)(編著)日本国際問題研究所 【b】
- ・NHK スペシャル「イスラム」プロジェクト『イスラム潮流』(監修)日本放送出版協会 【b】
- ・「現代の国際社会とイスラーム世界：21 世紀へ向けて」『立命館言語文化研究』11(4)、3-20 頁 【c】
- ・「イスラームと中東域内政治」『国際問題』487、2-15 頁 【c】
- ・「異文化をつなぐ知恵：イスラームの倫理と共存の仕組み」稲賀繁美(編)『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、231-248 頁 【c】
- ・「宗教と近代国家をめぐる」総合研究開発機構・中牧弘允(編)『現代世界と宗教』国際書院、15-24 頁 【c】
- ・「現代レバノンにおける宗派制度とアイデンティティ」総合研究開発機構・中牧弘允(編)『現代世界と宗教』国際書院、113-130 頁 【c】
- ・「現代イスラームの眺望と国際社会」小杉泰(編)『21 世紀の国際社会とイスラーム世界』日本国際問題研究所、21-39 頁 【c】
- ・「ソフト・パワーとしてのイスラーム世界：イスラーム復興と無利子銀行が目指すパラダイム転換」『日本経済研究センター会報』850(2000 年 8 月 1 日 / 15 日合併号)、4-9 頁 【d】
- ・「ハタミ『対話論』とシーア派ヘゲモニー」『季刊アラブ』92、6-8 頁 【d】
- ・「現代イスラム国家と市民」『外務省「イスラム研究会」報告書』外務省イスラム研究会、35-42 頁 【g】

2001 年

- ・『増補 イスラームに何がおきているか』(編著)平凡社 【b】
- ・「イスラームの『教経統合論』：イスラーム法と経済の関係をめぐって」『アジア・アフリカ地域研究』1、81-94 頁 【c】
- ・「イスラーム政党をめぐる研究視座と方法論的課題：比較政治学と地域研究の交差する地点で」『アジア・アフリカ地域研究』1、231-250 頁 【c】
- ・「原理主義」樺山紘一・坂部恵・古井由吉・山田慶児・養老孟司・米沢富美子(編)『越境と難民の世紀』(「20 世紀の定義」4)岩波書店、153-179 頁 【c】

- ・「岐路に立つ国際社会とイスラーム世界」小杉泰(編)『増補 イスラームに何がおきているか』平凡社、308-323頁【c】
- ・「イスラームからの視点」村上龍『収縮する世界、閉塞する日本 Post September Eleventh』NHK出版、161-202。(村上龍との対談、2001年11月23日)【g】
- ・「ソフト・パワーとしてのイスラーム世界：イスラーム復興と無利子銀行が目指すパラダイム転換」土志田征一・日本経済研究センター(編)『世界の明日 日本の明日を読む：21世紀の政治・経済・社会のかたち』日本経済新聞社、194-208頁【g】
- ・「仏教遺産を救えなかった日本の責任：問われるイスラーム理解 求められるアフガニスタン和平プロセスの強化」(インタビュー)『世界』688(2001年5月)、155-160頁【g】

2002年

- ・『ムハンマド：イスラームの源流をたずねて』山川出版社【a】
- ・『イスラーム世界を読む』(NHK 人間講座テキスト)日本放送出版協会【a】
- ・『岩波イスラーム辞典』(大塚和夫,小松久男,東長靖,羽田正,山内昌之と共編著)岩波書店【b】
- ・*Conversion Tables Hijri-Anno Domini and Perpetual Calendars* (Kyoto: The Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University) (Y. H̄ Ibish, Y. Q. Khūrī と共同監修。『ヒジュラ暦西暦換算表』)【b】
- ・日本比較政治学会(編)『現代の宗教と政党：比較のなかのイスラーム』(日本比較政治学会年報第4号)早稲田大学出版部(編集委員長)【b】
- ・『岐路に立つ世界を語る：9.11以後の危機と希望』(臼杵陽・松原正毅と共編著)平凡社【b】
- ・『空間：アジアへの問い』(「アジア新世紀」1)(青木保・姜尚中・坂元ひろ子・莫邦富・山室信一・吉見俊哉・四方田犬彦と共編)岩波書店【b】
- ・『アイデンティティ：解体と再構成』(「アジア新世紀」3)(青木保ほかと共編)岩波書店【b】
- ・「イスラームとは何か：啓典のテキストと解釈の革新」『思想』941、6-29頁【c】
- ・「イスラームの挑戦か、諸宗教の復興か：現代の宗教と政党を考える」日本比較政治学会(編)『現代の宗教と政党：比較のなかのイスラーム』(日本比較政治学会年報第4号)早稲田大学出版部、3-30頁【c】
- ・「イスラーム人生相談所：暮らしの中の法学」大塚和夫(編)『現代アラブ・ムスリム世界：地中海とサハラのはざまで』世界思想社、13-45頁【c】
- ・「イスラーム研究と南アジア」長崎暢子(編)『現代南アジア1 地域研究への招待』東京大学出版会、189-212頁【c】
- ・「心の中に刻まれた書物：クルアーンとハディース」『本とコンピュータ』2002春号、126-132頁【g】
- ・「イスラーム入門」『外交フォーラム』163、75-77頁【d】
- ・「イスラームという生き方」『JICA フロンティア』31、4-5頁【g】
- ・「『岩波イスラーム辞典』を語る」(山崎貫との対談,司会：子島進)『地域研究スペクトラム』8、45-53頁【g】
- ・「『座談会』記憶と語りで伝える文化」(菅原純・松枝到との座談会)『本とコンピュータ』2002春号、140-146頁【g】

2003 年

- ・ *CD-ROM Al-Manar 1898–1935* (Kyoto: COE-ASAFAS, Kyoto University) [アラビア語『マナー
ル』誌・CD-ROM 復刻版] (監修) 【b】
- ・ *Mudawwana Ṣaḥāfa al-Jazīra al-‘Arabīya: al-Imārāt, al-Baḥrayn, al-Su‘ūdīya, ‘Umān, Qaṭar,
al-Kuwayt, al-Yaman* (Kyoto: 21st Century COE of Integrated Area Studies, Kyoto University) [ア
ラビア語『アラビア半島諸国定期刊行物カタログ』] (Yūsuf Ībish と共同監修) . 【b】
- ・『歴史：アジアの作られかた・作りかた』（「アジア新世紀」2）（青木保ほかと共編）岩波書店 【b】
- ・『現代のイスラーム思想と政治運動』（イスラーム地域研究叢書 2）（小松久男と共編著）東京大
学出版会 【b】
- ・『「イラク戦争」検証と展望』（寺島実郎・藤原帰一と共編著）岩波書店 【b】
- ・『幸福：変容するライフスタイル』（「アジア新世紀」4）（青木保ほかと共編）岩波書店 【b】
- ・『市場：トランスナショナル化する情報と経済』（「アジア新世紀」5）（青木保ほかと共編）岩波
書店 【b】
- ・『メディア：言論と表象の地政学』（「アジア新世紀」6）（青木保ほかと共編）岩波書店 【b】
- ・『パワー：アジアの凝集力』（「アジア新世紀」7）（青木保ほかと共編）岩波書店 【b】
- ・『構想：アジア新世紀へ』（「アジア新世紀」8）（青木保ほかと共編）岩波書店 【b】
- ・「宗教と政治：宗教復興とイスラーム政治の地平から」池上良正ほか（編）『宗教とはなにか』（岩
波講座宗教 1）岩波書店、241–272 頁 【c】
- ・「啓典の支配力：イスラーム政治の再登場」青木保ほか（編）『パワー：アジアの凝集力』（「アジ
ア新世紀」7）岩波書店、35–48 頁 【c】
- ・「新世紀アジアの生命力」青木保ほか（編）『構想：アジア新世紀へ』（「アジア新世紀」8）岩波書店、
244–253 頁 【c】
- ・「『イラク戦争』が破壊したもの：イスラーム世界と米国」寺島実郎ほか（編）『「イラク戦争」検
証と展望』岩波書店、24–36 頁 【c】
- ・「イラン革命から湾岸戦争、『九・一一』事件へ」青木保ほか（編）『歴史：アジアの作られ方・作り方』
（「アジア新世紀」2）岩波書店、125–146 頁 【c】
- ・「行動の思想、思想の実践：バンナーとクトゥブ」（横田貴之と共著）小松久男・小杉泰（編）『現
代のイスラーム思想と政治運動』（イスラーム地域研究叢書 2）東京大学出版会、39–62 頁 【c】
- ・「未来を紡ぐ糸：新しい時代のイスラーム思想」小松久男・小杉泰（編）『現代のイスラーム思想
と政治運動』（イスラーム地域研究叢書 2）東京大学出版会、275–312 頁 【c】
- ・「イスラーム世界とイラク」（特集：ポスト・イラク戦争：民族・宗教・文化から復興を考える）『NIRA
政策研究』16(7)、25–29 頁 【d】
- ・「イスラーム復興運動の現代的課題：アラブ世界を中心に」慶應義塾大学地域研究センター
（編）『21 世紀とイスラーム：その多様性と現代的課題』（地域研究講座）慶應義塾大学出版会、
59–105 頁 【g】
- ・「＜総合討論＞アジア・パワーのゆくえ：国家と脱国家のダイナミズム」（熊岡路矢・青木保・姜
尚中との座談会記録）青木保ほか（編）『パワー：アジアの凝集力』（「アジア新世紀」7）岩波書店、
1–31 頁 【g】
- ・「イスラーム世界とイラク問題」『Academia』（全国日本学士会）81、1–15 頁 【g】

- ・「日本にとってのアラブ、イスラーム世界」(橋爪大三郎・松本健一との座談会、司会＝入山映)『2002年度(平成14年度)年次報告書』笹川平和財団、5-15頁【g】
- ・「イスラームとアメリカ：共存の可能性を探る」(村田晃嗣・臼杵陽・森孝一とのパネルディスカッション記録)『基督教研究』65(1)、3-28頁【g】

2004年

- ・ *Mudawwana Ṣaḥāfa Lubnān* (Kyoto: 21st Century COE of Integrated Area Studies, Kyoto University) [アラビア語『レバノン定期刊行物カタログ』] (Yūsuf Ībish と共同監修) 【b】
- ・『GCC 諸国と民主主義』(編著) 日本国際問題研究所 【b】
- ・ポール・ランディ(著)『イスラーム：この1冊でイスラームのすべてが見える』(監訳) ネコ・パブリッシング 【f】
- ・「現代イスラーム法における解釈の革新：イジュティハード再考」比較法史学会(編)『戦争装置としての国家』比較法制研究所、194-216頁【c】
- ・「イスラーム世界の動向とアジアの共生」福原義春・樺山紘一(編)『解はひとつではない：グローバルバージョンを超えて』慶応義塾大学出版会、260-269頁【g】
- ・「現代イスラームと民族問題」関西学院大学キリスト教と文化研究センター(編)『民と神と神々と：イスラーム・アメリカ・日本を読む』関西学院大学出版会、133-167頁【g】

2005年

- ・ *Mudawwana Ṣaḥāfa Sūriya* (Kyoto: 21st Century COE of Integrated Area Studies, Kyoto University) [アラビア語『シリア定期刊行物カタログ』] (Yūsuf Ībish と共同監修) 【b】
- ・ *Turāth al-Fikr al-Siyāsī al-Islāmī* (Beirut: Turāth; Kyoto: 21st Century COE of Integrated Area Studies, Kyoto University) [アラビア語『イスラーム政治思想の遺産』] (Yūsuf Ībish と共編) 【b】
- ・「イスラームにおける共同体・正義・公正」聖心女子大キリスト教文化研究所(編)・加藤信朗(監修)『共生と平和への道：報復の正義から赦しの正義へ』春秋社、167-184頁【c】
- ・「民主化と安定に向けて：イラク戦争後の湾岸」日本国際問題研究所(編)『湾岸アラブと民主主義：イラク戦争後の眺望』日本評論社、1-17頁【c】
- ・「現代中東政治の眺望：二〇世紀の遺産と二一世紀のパラダイム」『中東研究』2005-06(1)、30-38頁【c】
- ・「解説」マフムード・マムダーニ(著)・越智道雄(訳)『アメリカン・ジハード：連鎖するテロのルーツ』岩波書店、305-314頁【d】

2006年

- ・『現代イスラーム世界論』名古屋大学出版会【a】
- ・『イスラーム帝国のジハード』(興亡の世界史06)講談社【a】
- ・『イスラーム：社会生活・思想・歴史』(江川ひかりと共編著)新曜社【b】
- ・ *Intellectuals in the Modern Islamic World: Transmission, Transformation, Communication*. London: Routledge. (Hisao Komatsu, Stephane Dudoignon と共編著)【b】
- ・“Al-Manār Revisited: The ‘Lighthouse’ of Islamic Revival,” in Dudoignon, Komatsu, and Kosugi (eds.) *Intellectuals in the Modern Islamic World: Transmission, Transformation, Communication*, pp. 3-39【c】

- ・「イスラームと公共性」(澤江史子と共著) 稲垣久和・金泰昌(編)『宗教から考える公共性』(公共哲学 16) 東京大学出版会、209-228 頁 【c】

2007 年

- ・「イスラーム世界における文理融合論:「宗教と科学」の関係をめぐる考察」『イスラーム世界研究』1(2)、123-147 頁 【c】
- ・「シンポジウム『地域研究の最前線: 知の創成』報告」『学術の動向』2007(6)、10-12 頁 【d】
- ・「<KIAS 設立記念講演会講演録> 新時代のイスラーム地域研究とその魅力」『イスラーム世界研究』1(1)、1-11 頁 【g】

2008 年

- ・『イスラーム世界研究マニュアル』(林佳世子・東長靖と共編著) 名古屋大学出版会 【b】
- ・『イスラーム世界研究のための現代アラビア語マニュアル 2008』(岡本多平・竹田敏之と共著) 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科連環地域論講座(イスラーム世界論)・研究科附属イスラーム地域研究センター(KIAS)・若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP) 【b】
- ・『新詳 世界史 B』(川北稔・重松伸司・杉本淑彦・桃木至朗・青野公彦・清水和裕・吉澤誠一郎・杉山清彦と共著) 帝国書院 【b】
- ・「塩尻和子『イスラームの人間観・世界観: 宗教思想の深淵へ』筑波大学出版会」『朝日新聞』2008 年 4 月 6 日 【e】
- ・「関口義人編『アラブ・ミュージックその深遠なる魅力に迫る』東京堂出版」『朝日新聞』2008 年 5 月 11 日 【e】
- ・「今枝由郎『ブータンに魅せられて』岩波新書」『朝日新聞』2008 年 5 月 25 日 【e】
- ・「酒井啓子『イラクは食べる: 革命と日常の風景』岩波新書」『朝日新聞』2008 年 6 月 1 日 【e】
- ・「飯塚正人『現代イスラーム思想の源流』山川出版社」『朝日新聞』2008 年 6 月 8 日 【e】
- ・「師岡カリマ・エルサムニー『イスラームから考える』白水社」『朝日新聞』2008 年 6 月 29 日 【e】
- ・「山本まさき・吉田雄介『ウィキペディアで何が起きているのか』九天社」『朝日新聞』2008 年 7 月 13 日 【e】
- ・「松瀬学『五輪ボイコット: 幻のモスクワ、28 年目の証言』新潮社」『朝日新聞』2008 年 8 月 3 日 【e】
- ・「松浦晃一郎『世界遺産 ユネスコ事務局長は訴える』講談社」『朝日新聞』2008 年 9 月 14 日 【e】
- ・「外川昌彦『聖者たちの国へ: ベンガルの宗教文化誌』NHK ブックス」『朝日新聞』2008 年 9 月 28 日 【e】
- ・「フレッド・ピアス『水の未来: 世界の川が干上がるとき』日経 B P 出版センター」『朝日新聞』2008 年 10 月 5 日 【e】
- ・「吉岡一『イラク崩壊: 米軍占領下、15 万人の命はなぜ奪われたのか』合同出版、脇祐三『中東激変: 石油とマネーが創る新世界地図』日本経済新聞出版社」『朝日新聞』2008 年 10 月 19 日 【e】
- ・「内海成治・中村安秀・勝間靖『国際緊急人道支援』ナカニシヤ出版」『朝日新聞』2008 年 11 月 2 日 【e】
- ・「内海善雄『国連』という錯覚: 日本人の知らない国際力学』日本経済新聞出版社」『朝日新聞』2008 年 11 月 30 日 【e】

- ・「小林寧子『インドネシア：展開するイスラーム』名古屋大学出版会』『朝日新聞』2008年12月7日【e】
- ・「ジョン・レイ、田口未和訳『ヒエログリフ解説史』原書房』『朝日新聞』2008年12月14日【e】
- ・「越境するイスラーム？：宗教・政治・経済の関係をめぐって」『宗教と政治のインターフェイス：宗教が政治的課題となる領域とその間地域的比較研究（中間成果報告）』南山大学地域研究センター、1-19頁【g】
- ・「アラビア語 イスラーム文化圏を結ぶ紐帯」（特集：古典語・古代語の世界）『言語』37(12)、46-54頁【g】
- ・「イスラーム世界と世界史教育」（教科書に込めた想い）『新詳 世界史B 教授資料』帝国書院、12頁【g】

2009年

- ・「『クルアーン』：語りかけるイスラーム』岩波書店【a】
- ・「日本におけるアラビア語教科書と文法用語：教育戦略と基本用語の邦訳をめぐって」（岡本多平・竹田敏之と共著）『イスラーム世界研究』2(2)、63-95【c】
- ・「イスラーム文明の形成とその固有性をめぐって」『比較文明』24、21-47頁【c】
- ・「国際政治の中のイスラームと宗教」日本国際政治学会（編）『日本の国際政治学3 地域から見た国際政治』有斐閣、137-156頁【c】
- ・「イスラームのこころ：宗教復興とイスラーム経済」京都文化会議記念出版編集委員会・川添信介・高橋康夫・吉澤健吉（編）『こころの謎 kokoro の未来』京都大学学術出版会、362-386頁【c】
- ・「イスラーム世界の動態とグローバル化：中東・イスラーム地域の再編成とその展望」『世界問題研究所紀要』24、京都産業大学世界問題研究所、15-34頁【d】
- ・「イスラーム世界の眺望」（リレー連載：ナショナリズムとデモクラシー）『未来』511、28-37頁【c】
- ・「ジョン・トービー、藤川隆男監訳『パスポートの発明：監視・シティズンシップ・国家』法政大学出版局』『朝日新聞』2009年1月25日【e】
- ・「北村歳治・吉田悦章『現代のイスラム金融』日経P B社』『朝日新聞』2009年2月22日【e】
- ・「井原万見子『すごい本屋！』朝日新聞出版』『朝日新聞』2009年3月8日【e】
- ・「佐藤次高『砂糖のイスラーム生活史』岩波書店』『朝日新聞』2009年3月15日【e】
- ・「朝日新聞〈変転経済〉取材班『失われた〈20年〉』』『朝日新聞』2009年4月12日【e】
- ・「長谷川榮一『石油をめぐる国々の角逐：通貨・安全保障・エネルギー』ミネルヴァ書房』『朝日新聞』2009年4月19日【e】
- ・「平田竹男『サッカーという名の戦争 日本代表、外交交渉の裏舞台』新潮社』『朝日新聞』2009年5月3日【e】
- ・「スティーヴン・ファリス、藤田真利子訳『壊れゆく地球：気候変動がもたらす崩壊の連鎖』講談社』『朝日新聞』2009年5月10日【e】
- ・「遠藤晴男『オマーン見聞録：知られざる日本との文化交流』展望社』『朝日新聞』2009年5月24日【e】
- ・「村井吉敬『ぼくが歩いた東南アジア：島と海と森と』コモンズ』『朝日新聞』2009年6月7日【e】
- ・「リリアン・テルミ・ハタノ『マイノリティの名前はどのように扱われているのか：日本の公立学校におけるニューカマーの場合』ひつじ書房』『朝日新聞』2009年6月28日【e】

- ・「内藤正典『イスラムの怒り』集英社新書』『朝日新聞』2009年7月19日【e】
- ・「相川厚『日本の臓器移植：現役腎移植医のジハード』河出書房新社』『朝日新聞』2009年7月26日【e】
- ・「藤本華蓮『座標軸としての仏教学：パリー学僧と探す「わたしの仏教」』佼成出版社』『朝日新聞』2009年8月9日【e】
- ・「臼杵陽『イスラームはなぜ敵とされたのか：憎悪の系譜学』青土社』『朝日新聞』2009年9月13日【e】
- ・「ピーター・シリングスバーク『グーテンベルクからグーグルへ：文学テキストのデジタル化と編集文献学』（明星聖子・大久保譲・神崎正英訳）慶應義塾大学出版会』『朝日新聞』2009年10月11日【e】
- ・「菊地達也『イスラーム教「異端」と「正統」の思想史』講談社選書メチエ』『朝日新聞』2009年10月25日【e】
- ・「出井康博『長寿大国の虚構：外国人介護士の現場を追う』新潮社』『朝日新聞』2009年11月15日【e】
- ・「井筒俊彦『読むと書く：井筒俊彦エッセイ集』慶應義塾大学出版会』『朝日新聞』2009年11月22日【e】
- ・「ホミ・バーバ、W・J・T・ミッチェル編、上村忠男・八木久美子・栗屋利江訳『エドワード・サイード 対話は続く』みすず書房』『朝日新聞』2009年11月29日【e】
- ・「イスラーム金融の将来」（清水學と対談、司会＝湯川武）『ワセダアジアレビュー』6、16-21頁【g】

2010 年

- ・『イスラーム銀行：金融と国際経済』（イスラームを知る 12）（長岡慎介と共著）山川出版社【b】
- ・『イスラームの歴史 2 イスラームの拡大と変容』（宗教の世界史 12）（編著）山川出版社【b】
- ・「イスラームとは」『日本に生きるイスラーム：過去・現在・未来』サウジアラビア王国大使館文化部、15-33頁【d】
- ・「中東における戦争・内戦と政治変容」『中東研究』2010-2011(2)、29-41頁【c】
- ・「ウィルフレッド・セシジャー、白須英子訳、酒井啓子解説『湿原のアラブ人』白水社』『朝日新聞』2010年1月10日【e】
- ・「サラ・ロイ、岡真理・小田切拓・早尾貴紀編訳『ホロコーストからガザへ：パレスチナの政治経済学』青土社』『朝日新聞』2010年1月17日【e】
- ・「アレキサンダー・ハラヴェ、田畑暁生訳『ネット検索革命』青土社』『朝日新聞』2010年2月14日【e】
- ・「菅原光『西周の政治思想：規律・功利・信』ぺりかん社』『朝日新聞』2010年3月7日【e】
- ・「平川祐弘『日本語は生きのびるか：米中日の文化史的三角関係』河出ブックス』『朝日新聞』2010年3月21日【e】

2011 年

- ・『イスラーム 文明と国家の形成』（諸文明の起源 4）京都大学学術出版会【a】
- ・「アラブ革命の連鎖と 21 世紀の中東」『中東研究』2011(2)、10-18頁【c】
- ・「ポスト九・一一のイスラーム復興：中道派と草の根の運動」『現代思想』39(13)、120-135頁【c】
- ・「現代イスラーム世界の立憲主義と議会」（講演要旨）『東洋學報』93(2)、101-103頁【d】

- ・「中東・北アフリカ民主化革命は産油国に波及するか」『エコノミスト』2012年1月3・10日号、99頁【g】

2012年

- ・「現代中東・イスラーム世界の生存基盤：石油依存の帰結と属人性原理の復興」杉原薫・藤田幸一・田辺明生・脇村孝平(編)『歴史のなかの熱帯生存圏：温帯パラダイムを超えて』京都大学学術出版会、439-470頁【c】
- ・「現代宗教としてのイスラーム：世界的なウンマとモスクを中心とする地域コミュニティ」『宗教研究』371、71-96頁【c】
- ・「新時代のイスラーム学構築の必要性：イスラーム復興とグローバル化を背景とする新しい課題群とその射程」『イスラーム世界研究』5(1/2)、175-191頁【c】
- ・「イスラーム世界論から見た研究の射程と課題」『南アジアとイスラーム：知的ネットワークと民衆運動』(NIHU Research Series of South Asia and Islam 1) 人間文化研究機構地域間連携研究の推進事業「南アジアとイスラーム」、1-17頁【c】
- ・“Frontier of Islamic Economics and Finance: New Challenges: Preface,”『アジア・アフリカ地域研究』11(2)、89-92頁【d】
- ・「イスラーム復興の時代：激動の中東をめぐる旅から」(フォトエッセイ)『イスラーム地域研究ジャーナル』4、11-24頁【g】
- ・「現代イスラーム文化と日本社会」(講演記録)『東洋学術研究』51(1)(通巻168)、121-171頁【g】
- ・「現代におけるイスラーム世界の魅力：深遠で壮大なイスラームの世界に迫る」(インタビュー)『第三文明』2012年3月号、44-46頁【g】
- ・「アラブに春は来たのか？」(私市正年と対談)『公研』2012年3月号、32-47頁【g】

2013年

- ・『環インド洋地域における宗教復興・テクノロジー・生命倫理』(編著)京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター・同附属現代インド研究センター【b】
- ・岩波書店辞典編集部(編)『岩波 世界人名大辞典』(編集委員)岩波書店【b】
- ・「イスラーム的身体観と生命倫理の再構築：グローバル化時代におけるその意義」小杉泰(編)『環インド洋地域における宗教復興・テクノロジー・生命倫理』京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター・同附属現代インド研究センター、241-250頁【c】
- ・「現代イスラームの宗教文化と政治・社会」(講演記録)『學士會会報』903、34-45頁【d】
- ・「『知のつぼ』としての研究者：地域と日本を往還する」(講演記録)『第9回松下幸之助国際スカラシップフォーラム』松下幸之助記念財団、3-16頁【g】
- ・「『平和』こそが日本の資産である。一〇〇年戦争をしない国をめざそう」『第三文明』2013年3月号、26-28頁【g】

2014年

- ・『9・11以後のイスラーム政治』(岩波現代全書)岩波書店【a】
- ・『イスラーム 書物の歴史』(林佳世子・東長靖と共編著)名古屋大学出版会【b】

- ・「はじめに 光は東方から：文字と書物の水脈」小杉泰ほか（編）『イスラーム 書物の歴史』名古屋大学出版会、1-8 頁 【c】
- ・「イスラームの誕生と聖典クルアーン」小杉泰ほか（編）『イスラーム 書物の歴史』名古屋大学出版会、10-30 頁 【c】
- ・「デジタル時代の古典復興：アラビア語メディアを中心に」小杉泰ほか（編）『イスラーム 書物の歴史』名古屋大学出版会、396-421 頁 【c】
- ・「勃興する『イスラム国』と国際社会の選択：『怪物』を生み出した欧米の『力の倫理』』『外交』Vol.28(2014 年 11 月号)、46-51 頁 【c】
- ・「イスラームはどう世界につたえられたか」『広がり続けるイスラームの秘密』宗教情報センター、9-81 頁 【d】

2015 年

- ・「現代イスラームにおける国家と宗教：変容する国家像と越境するウンマ」『宗教研究』89(2)、53-78 頁 【c】
- ・「イスラーム経済とハラール人生哲学」『青淵』793、16-18 頁 【c】
- ・「過激派再登場の悪夢：中東の『イスラーム国』問題に思う」『學士會会報』913、34-37 頁 【d】

2016 年

- ・『イスラームを読む：クルアーンと生きるムスリムたち』大修館 【a】
- ・『イスラーム帝国のジハード』講談社学術文庫版 【a】
- ・Maryanne Cline Horowitz（編）・スクリプナー思想史大事典翻訳編集委員会（訳）『スクリプナー思想史大事典』（全 10 巻）（翻訳編集委員）丸善出版 【b】
- ・「イスラームの平和思想」「イスラーム復興運動」「ジハード」広島市立大学広島平和研究所（編）『平和と安全保障を考える事典』法律文化社、33-34、290 頁 【d】
- ・「本人・父・祖父をつなぐ：アラビア語（姓はどこから？）」岩波書店辞典編集部編『世界の名前』岩波新書、58-60. 【g】
- ・「グローバル化以降の世界」『世界史のしおり』68(2016 年度 1 学期号)、6-8 頁 【g】

2017 年

- ・『イスラームという生き方（上）』（小杉麻李亜と共著）NHK出版 【b】
- ・『イスラームという生き方（下）』（小杉麻李亜と共著）NHK出版 【b】
- ・“Islamic Revival and the Majority Trend of Moderation: Personal Reflections on a Half-Century of Japanese Studies,” *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 10, pp. 3-18 【c】
- ・「21 世紀型イスラーム学の拡充と活用へ向けて：5 項目の戦略的提言」（「グローバル化時代に対応する 21 世紀型イスラーム学の構築」研究チームと共著）『イスラーム世界研究』10、124-130 頁 【d】
- ・「内戦とテロの拡散にゆれる中東諸国」『世界史のしおり』72(2017 年度 2 学期号)、表紙裏-2 頁 【g】
- ・「私の三冊」（岩波文庫創刊 90 年記念 私の三冊）『図書』臨時増刊、31 頁 【g】
- ・「世界のニュースが 5 分でなるほど！講座 05」『日経おとなの OFF』197、56-61 頁 【g】

2018年

- ・『中東地域研究のためのアラビア語：実践文法と用例』（岡本多平・竹田敏之・ハシヤン・アンマールと共著）京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻、京都大学イスラーム地域研究センター、ハダリー・イスラーム文明研究センター 【b】
- ・『大学生・社会人のためのイスラーム講座』（黒田賢治・二ツ山達朗と共編著）ナカニシヤ出版 【b】
- ・『新詳 世界史 B 指導資料』（川北稔・杉本淑彦・桃木至朗・指昭博・青野公彦・三田昌彦・清水和裕・吉澤誠一郎・山下範久・杉山清彦と共著）帝国書院 【b】
- ・「イスラーム主義」小杉泰ほか（編）『大学生・社会人のためのイスラーム講座』ナカニシヤ出版、222-240 頁 【c】
- ・「法学・神学」（ハシヤン・アンマールと共著）小杉泰ほか（編）『大学生・社会人のためのイスラーム講座』ナカニシヤ出版、95-111 頁 【c】
- ・“Humanities 101: A Kyoto Approach to History, Society, and the Study of Humanity,”（座談会記録）*Kyoto U Research News*, 2018 Spring, pp. 3-11 【g】
- ・「辞典を作る愉しみ」（特集『広辞苑』第7版）『図書』828、22-23 頁 【g】
- ・「宗教復興と現代イスラムの展開」松井孝典（監修）『全・地球学 1996-2017：フォーラム『地球学の世紀』22年134人の知の試み』ウェッジ、348-349 頁 【g】

2019年

- ・『ムハンマドのことは：ハディース』（編訳・解説）岩波書店 【a】
- ・「イスラーム法における『ハラール』規定をめぐる考察：『ハラール／ハラーム』の2分法と法規定の『5範疇』の相関性を中心に」『イスラーム世界研究』12、170-188 頁 【c】
- ・「ハラール食品とは何か：イスラーム法とグローバル化」井坂理恵・山根聡編『食から描くインド：近現代の社会変容とアイデンティティ』春風社、341-371. 【c】
- ・“*Ibn Battuta and His Journeys to the Border Regions: New Studies on Rihla Ibn Battuta by Hikoichi YAJIMA*, Nagoya: Nagoya University Press, 2017,” *Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University* 1, pp. 106-109 【e】

2020年

- ・「イスラームにおける『スンナ』の多義性とハディースとの相関性：ハディース学および法源学から見た位置づけ」『イスラーム世界研究』13、108-129 頁 【c】

2021年

- ・*Asia and Japan: Perspectives of History: A Symposium Record* (AJI Books), (Gyongsu MUN と共編) Osaka: Asia-Japan Research Institute, Ritsumeikan University 【b】
- ・ガーズイー・ビン・ムハンマド王子（著）『現代人のためのイスラーム入門：クルアーンからその真髄を解き明かす12章』（池端落子と共訳）中央公論新社 【f】
- ・“‘Ijma’ in Islamic Law and Islamic Thought: Tradition, Contemporary Relevance, and Prospects,”（池端落子と共著）*Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 14, pp. 5-29 【c】
- ・「責任の体系としてのシャリーア：イスラーム法源学による法規定の定式化と5範疇への収斂の構造」『イスラーム世界研究』14、179-208 頁 【c】

- ・「イスラーム法(シャリーア)の構造的理解と現代イスラーム世界の政治・経済の新動向: イスラーム法源学を手がかりとした解析視座の確立をめざして」『立命館アジア・日本研究学術年報』2、66-77 頁 【c】
- ・「イスラーム主義の変遷と今後の展望」『中東研究』2021(2)、18-27 頁 【c】
- ・「イスラーム過激派は、いかに勃興したか: 政治変動とテロのあいだで」西尾哲夫・東長靖(編)『中東・イスラーム世界への30の扉』ミネルヴァ書房、227-236 頁 【c】

2022 年

- ・「シャリーアの典拠における命令言辞の多様性とその法解釈: イスラーム法源学におけるテキスト解釈をめぐる考察」『イスラーム世界研究』15、180-204 頁 【c】
- ・“Synergy of Knowledge in the Formation of Islamic Jurisprudence: The Five Categories of Legal Rulings (Ahkam) from ‘Abd al-Jabbar to al-Ghazali,” in Khairudin Aljunied (ed.), *Knowledge, Tradition and Civilization: Essays in Honour of Professor Osman Bakar*, Oldham: Beacon Books and Media, pp. 127-144 【c】

2023 年

- ・「法源学構築のもう1つの道: ハナフィー法学派における『法学原則』の形成と『法規定の7範疇』」『イスラーム世界研究』16、96-115 頁 【c】

2024 年

- ・「イスラーム法源学の展開とシャリーアの体系化: マカースイド(法の目的)の機能と意義を中心に」『イスラーム世界研究』17、191-211 頁 【c】
- ・「イスラーム世界の生命力と国際社会での望み」『Voice』526、226-235 頁 【g】